

8人が登壇ズバリ!! 村政を問う!



宗田 雅之 議員

- ① 今後のバイオマス構想
- ② 国道349号の危険箇所解消



堀川 照夫 議員

- ① 畜産振興における繁殖牛農家への支援策



京條 英征 議員

- ① 村営住宅のあり様
- ② 定住促進にあたっての組織
- ③ 親と同居世帯と多子世帯への支援策



遠藤 貴人 議員

- ① 鹿角平観光牧場の縦貫道路の拡幅整備



北條 利雄 議員

- ① 一般職員の研修
- ② 臨時、嘱託員の待遇改善と研修
- ③ 障害者の雇用
- ④ 障害者への生活支援



関根 英也 議員

- ① 基幹産業である畜産農家の振興策
- ② 畜産の繁殖率の向上と分娩時の事故防止、労働軽減



前田 武久 議員

- ① 大楽村政4期目の抱負
- ② 上水道の整備網羅
- ③ 機能を果たしていない防災無線



関根 政雄 議員

- ① 総合観光案内板と集落間の案内板の設置
- ② 村内の総合的産業の担い手育成支援

一般質問の答弁者



大楽 勝弘 村長



奥貫 洋 教育長

鮫川小学校の6年生の皆さんににお絵を書かせていただきました。



宗田 雅之 議員

問

今後のバイオマス構想を問う

答

村の自然環境を守る活動を支援していく



循環型農業の起点となる土づくりセンター

質問

少子高齢化、東京への一極集中に伴い、地方の人口が年々減少する中で、村では平成20年に次世代へ村の美しい自然、文化、地域の絆を受け継ぐことを目的に「バイオ

マスヴィレッジ構想」を立上げましたが、現在、定住人口の減少、耕作放棄地の増加に伴う自然環境の崩壊など懸念される中で、この構想を今後、どの様に展開していくのか、また自然の安全指標

生物である「ミツバチ」の養蜂も豊かな自然を持つ本村の地域おこしになるのではと考えるが、村長のご所見を伺う。

答弁(村長)

村の基幹産業である農業の六次産業化を図り、地域の活性化を図るとともに、地域に眠っている資源を有効に活用して循環型社会を形成する構想であり、今後も農地を守るため助成金を活用し、村の自然環境を守る活動に支援していく。次に、「ミツバチ」の飼育の件であるが、業として採算をとることは厳しいと思うが、養蜂は豊かな自然環境の指標として地域おこしに役立つ可能性を秘めているものと思う。その観点からも農村環境改善に取り組んでいく。

再質問

現在、宮城県や埼玉県の一部で行われている、耕作放棄地に菜の花を植採し、菜の花から菜種油を取り、一般家庭で消費してもらい、その廃油をバイオディーゼル燃料に

使う地域循環型農業を目的とした「菜の花プロジェクト」を作り地域おこしをしている。村はこの循環型農業にいち早く手を挙げているので、この様なシステムづくりも大事ではないか。また、ミツバチの飼育により菜の花から蜜を採取することにより蜂蜜による新たな商品開発に繋がるのでは、さらに子供達が参加

答弁(村長)

それぞれの思いをもった人達にプロジェクトを立ち上げていただき、そういった皆さんのグループには惜しみにくく協力、支援する思いである。

問 国道349号線の危険個所の対応策は

答 住民からの情報、要望を的確に県に伝え、適切に対応できるよう要望する

質問

多くの村民が通勤・通学に利用している国道349号線滝ノ下・青生野間に道路の傷みが多く、危険が伴う個所が多く見受けられ、住民の安全・安心のためにも早急な対策が必要と考えるが。

答弁(村長)

この道路は県管轄であるため、管轄する県に回答をお願いしたところ、日常の道路パトロールを

行い、異常個所については早急に応急処置を行い、経年劣化等により舗装が傷んでいる個所については、補修工事を行うことにより、道路利用者の安全な通行に支障のないよう維持管理に努めると回答があった。



京條 英征 議員

問

村営住宅の有り方について伺う

答

空き家調査を継続し、台帳を完成させて移住・定住を促進する

質問

宿ノ入村営住宅の予算が承認され、今後も適当な土地があれば住宅建設を進めたいとしている。また今は空き家対策専門の協力隊が活動している

ので、現状が明らかになって来る。今後は新たな村営住宅の建設でなく、交付金を活用して古民家を改修して「古民家村営住宅」という名称で貸し出しすることなどを優先すべきでないか。

答弁(村長)

地域おこし協力隊は空き家対策、移住、定住の促進等の幅広い活動を担っている。基本的に空き家は私有財産であり、移住・定住に役立てるためには、利権者の特定、譲渡、賃貸等の可否や条件の合意も含めて高いハードルがある。

村では空き家4物件を取得しすべて貸し出ししており、今後も調査を継続して移住・定住に寄与するために情報を発信していく。

問 定住促進にあたっての組織はあるのか

答 集落単位の受け入れ体制づくりなどを検討する。

質問

地方創生には首長・意欲ある職員・地域を愛する住民が一体となった組織づくりが欠かせないと考える。課題が山積している中、職員は先頭に立ってそれらを認識し、危機感を共有しなければ

ならない。そして熱い想いを持って鮫川村を選んでくれた地域おこし協力隊の皆さんを孤立させてはならない。活動後も是非村に残ってほしいものだ。「ここで一緒に暮らし新しい田舎をつくらう」と発信すべきと考え

答弁(村長)

移住・定住を促進する組織については効率性の実効力の観点から、集落単位の受け入れ体制づくりを想定し、集落協議会の設置を検討する予定だ。

協力隊はそれぞれの得意分野を生かし、その能力と強みを存分に発揮し成果を上げてくれる事を求められており、そのような人材を村では採用している。今後も専門性の高い力強い行動力のある活動を期待している。

問 親と同居世帯と多子世帯への支援策を問う

答 家賃算定の段階で既に実施されている

質問

保育料と同様に家賃も子供の人数で軽減する支援策、親と同居して子育て中の世帯に対しての支

援はできないか。祖父母は子育ての名人である。子どもは世代を超えて同居する家族から計り知れない多くの学びを得てい

る。大切な家族の絆を軽んじてはますます「無縁社会化」にしてしまわないか心配である。日本の本当の豊かさと美しさは家庭にある。敬老会での子ども達の作文発表に目頭を押さえている方が何人もおり感動した。そこには家庭での学びがぎゅしりと詰まっていた。村長の所信を伺う。

答弁(村長)

村営住宅の家賃算定には公営住宅法等の規定により決定されており、自治体が独自に決められない。同居世帯への支援については課題を整理し目的を明確にした上で検討を重ね実態に合った対策に取り組む。



敬老会にて感謝の作文を発表する児童



北條 利雄 議員

問

障害者への日常生活支援の方策を伺う

答

グループホームの整備を支援検討する

質問

鮫川福祉会(鮫川たんぼの家)は、就労や生産活動機会の提供、就労に必要な知識や能力向上の訓練等を実施し、利用者が地域の一員として活躍されている。しかし、ご家族が高齢者や介護利用者である厳しい現状がある。単身の生活には不安があり、一定の支援を受け地域の中で暮らしたいとする要望がある。障害者への家事等の日常生活の支援を行う、共同生活援助が必要。村の対応を伺う。

答弁(村長)

共同生活援助は、自立し



たんぼの家の感謝祭で出演する利用者の皆様

た日常生活を営むため、食事や入浴等の介護・相談等を支援する生活の場で、主に夜間において事業所のスタッフによる支援を行う。鮫川福祉会では、準備委員会を設立し協議を進める意向であり、計画等が示された段階で支援を検討する。

問 本村の障害者の雇用促進の状況を伺う

答 法定雇用率を達成している

質問

障害者の雇用を進める根底には、共生社会実現の理念があり、普通に地域で暮らし、地域の一員として生活できる社会を実現し、職業による自立を進めるもの。障害者の雇用の促進等に関する法律は、事業主が法定雇用率以上の割合で雇用する義務がある。本村の障害者雇用の選任状況を伺う。

答弁(村長)

障害者の雇用は、現在2名の方を採用し、地方公共団体等の法定雇用率を達成している。雇用計画は、法定雇用率を達成しており作成はしていない。障害者である職員の任免の状況は毎年、労働局へ提出している。雇用推進者の選任は、人事等に関する事務を所掌する総務課が担当している。

問 職員の意識改革と能力開発の研修支援を伺う

答 小規模自治体が自立するための課題解決、育成は重要課題である

質問

地方分権が進む中、組織の担い手である職員自身の意識改革と能力開発を効果的に実施する必要

がある。課題の発見や解決、政策提案や立案能力が求められる。具体的な提言や、実行に結びつける能力は、行政サービスを享受する村民の大きな関心事である。自治政策の中心を担う職員の役割は大きく、研修は重要である。行政課題に的確かつ迅速に対応し得る人材育成を図り、その成果や期待を生かす必要がある。自主研修への支援の考え方を伺う。

答弁(村長)

課題解決に取り組める職員の採用や育成は、重要課題であり、小規模自治体が自立し存続するために重要である。研修は、職務、職責に応じ計画的に受講させている。職員自身の能力や知識、課題を

発見し、解決するための自己啓発や自主学習を受ける際には、職務に専念する義務が免除され、その機

問 臨時・嘱託職員の待遇等の改善、行政サービスの向上策を伺う

答 多様化する住民サービスに対応した研修を推進する

質問

臨時・嘱託職員は、一般職員と何ら変わらない行政サービスを提供している。自治体の人件費の抑制が課題となる中、財政健全化、定数適正化に沿って職員を削減した結果である。待遇や処遇は、行政サービスの質に関わる。必要不可欠な人員であれば、待遇等を一般職員同様に改善し、専門的研修等を受講する機会を設け、職員の一員として質の高い行政サービスを提案・提供できる、住民に顔が見える業務を期待する。業務形態や研修計画状況を伺う。

答弁(村長)

財政状況の悪化や少子高齢化社会、地方分権に伴い、行政の在り方を見直し、効果的・効率的な行政運営が不可欠である。職員数の適正化による削減計画は当初を上回る結果にある。退職者不補充の中でも、必要とする事務事業を推進し、最低限の範囲で雇用し支障がないよう努めている。待遇等は、人事院勧告や近隣町村を参考に決定している。研修は、業務の内容や責任の程度に応じて適切に対応しており、さらに内容を検討し推進する。



前田 武久 議員

問 大樂村政、4期目の抱負を示せ

答 子供からお年寄りまで、安心して暮らせる村づくりを目指す

質問 4期目の村民に対しての公約と重要施策、3期目に果たせなかった課題への取り組みと実現策を伺う。

答弁(村長)

「授業料の無料化」他、継続事業として青生野地区に計画されているメガソーラーへの支援、自立できる健全な行財政確立、滞在型市民農園クラインガルテン、村が大型ハウスを建設し公設民営方式の事業、鹿角平観光牧場周辺の開発とスポーツエリア計画、湯の田温泉の利活用、3期中の課題は重要性、効率性を検討し解決する。

再質問

嘱託、臨時職員の増員が図られているが行財政改革に比例するものとは思えない。村長の重要公約として「公正・公平」をあげているが、人事面(嘱託、臨時職員)で縁故関係の採用がかなり見られるとの声も聴くが、心当たりはあるか。

答弁(村長)

現在は嘱託職員16名、臨時職員が19名、正職員が73名である。職員採用試験の平均点数をクリアした者を2次試験にあてる。私は身内採用をしやすい性格なので2次選考には加わらない。

再質問

質しているのは嘱託、臨時職員の採用の件である。授業料無料化についての取り組みの具体策は。

答弁(村長)

子育てしやすい環境づくりが必要であるため今後検討する。

再質問

青生野地区のメガソーラーの支援策は。

答弁(村長)

5つの牧野組合からメガソーラー設置の要望があり、地区受益者が自ら取りまとめて村に提案しているので支援をしていきたい。

再質問

青生野小の統合問題に

ついて地区からの要請はあるか。

答弁(村長)

青生野地区では全く話はないが統合は必要である。地区の理解を得られれば4期中には積極的に取り組む。

再質問

手・まめ・館の振興公社の立ち上げは設立当時から村長公約であるが決断決意は。

問

機能を果たし得なかった防災無線対策は

答 現在対策を講じている

質問

平成25年3月のデジタル工事完成以来機能を果たさなかった要因について伺う。

答弁(村長)

その防災無線については職員に気合いをかけた。昭和61年度運用のアナログ式で平成14年に更新後、国で定めるデジタル化で平成25年3月に完成した。現在業者により対策を講じている。

答弁(村長)

振興公社が適正なのか4年間で判断したい。

問 東部地区の公設簡易水道の整備計画を問う

答 平成31年以降の契約となる

質問

東日本震災後、水源の枯渇を生じ、今以上に水道の確保に不安を抱いている東野地区は、広畑からの公設簡易水道の延進網羅を望んでいるが計画はあるか。

答弁(村長)

築40年を超える鍛木田の配水地の拡張工事は平成29年度に開始し31年度に完成する予定だ。31年度までは協議を要する課題だ。

再質問

不具合を指摘しても3年近く音声を聞き取れなかった。野外、屋内拡声局共に故障で当時から村当局へ対処するように組

長、区長を通じて通知したのにも関わらず解消が

業務の範囲内で対応する。

答弁(村長)

同業者であり保守点検業務の範囲内で対応する。



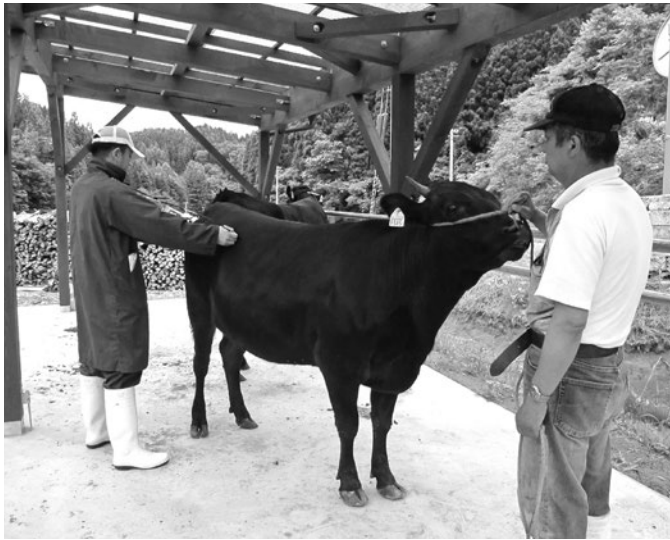
指摘された防災無線屋外拡声子局



堀川 照夫 議員

問 畜産振興における繁殖牛農家の支援策について問う

答 畜産経営が安定できるよう支援する



村の主要産業である和牛繁殖業

質問

①肉牛繁殖雌牛導入助成金を近隣町のように引き上げるべきと考えるがいかがか。
②優良系統の種は高価であるが、種の共同購入や種代の助成する支援策をする考えはあるか。
③畜産農家は高齢化が進んでいるが、担い手育成について伺う。

答弁(村長)

①繁殖雌牛導入基金により50万円を5年間無利子の貸し付け制度がある。

また1頭あたり、輸送費補助1千円、ヘルパー依頼に2千円、アカバナ病予防注射に890円の助成がある。導入費の1万5千円については検討する。

②凍結精液の共同購入は価格の優位性が得られない事などの問題から現在の体制が適切である。

③国の施策である経営所得安定対策による自給草の確保支援、村の単独事業活用など経営が安定するような担い手支援策を講じる。



遠藤 貴人 議員

問 鹿角平観光牧場、縦貫道路の拡張工事を促進すべき

答 国道289号線バイパスの整備路線が明らかになり次第検討する

質問

総合スポーツ型施設として期待される鹿角平観光牧場。観光産業の主幹である「高原の鮫川うまいもの祭り」も2千人以上の集客を誇るイベントとなった。しかし大きな懸念となっているのが、牧場内を縦貫する狭い道路事情である。観光牧場を利用した催しや、総合スポーツをより一層飛躍させるためには車両の往来がスムーズになる道路の拡張が必要と考えるが。

答弁(村長)

国道289号線渡瀬バイパス工事は県が事業を進めており、整備されると鹿角平観光牧場に県内外からの集客が見込める。このバイパスの詳細な道線形が明らかになった時点で検討する。

再質問

県内外からの集客を見込むのであれば、細やかな心遣いが行き届いた施設でなくてはならない。施設の駐車場内に障害者トイレが整備されているが、管理棟周辺には車椅子

子用のスロープはない。最近、ユニバーサルデザインという言葉が叫ばれる。これは老若男女、障害、能力の如何に関わらず全ての方に優しいデザインという意味である。

今後、総合開発をするうえで障害者をはじめとする人達の専門的な意見を取り入れる協議会も必要かと考える。

答弁(村長)

指摘のように村の施設のユニバーサルデザイン環境づくりは当然であり、優しい村を全面に出して計画するよう検討する。



総合的整備が求められている鹿角平



問 村の基幹産業である農業、畜産の振興策を問う

答 今後の県の畜産振興策を注視しながら、積極的に対応する



畜産振興策が期待される繁殖牛

質問

村では公設民営で大型ハウス栽培を提案するとしている。これは農業振興にとって大切で必要な事と思っている。また県では最先端技術で牛の繁殖、個体管理システムを開発し、共同農場整備を支援している。一ヶ所あたり繁殖牛300頭程度を想定し整備費や繁殖牛の購入費も含め、大半を補助するとしている。

いただきたいと思うが、村長の考えを伺う。

答弁(村長)

園芸施設を導入して新たな分野にチャレンジする予定。冬期間でも出荷できる作物を村内のバイオマス資源を活用し、施設園芸作物の推進を第一として農業全般について検討する。

次に県はモデル事業参加として牛の繁殖の最先端技術を活用した共同牧場の整備を支援するとの

こと。牛の受精適期の把握、給餌の自動化、個体管理システム、哺乳ロボット、畜舎の整備、繁殖牛の購入費用も含め大半を県が補助する方針となっている。また繁殖牛300頭程度の規模を10数ヶ所に拡大させたいとの内容である。

県の畜産振興策を注視しながら村でも積極的に対応する。

問 繁殖率の向上と分娩時の事故防止、労働軽減について問う

答 情報管理システムや機械器具の確認をして支援する

質問

本村には約1000頭の繁殖牛が飼育され、約700頭の子牛が生産されている。自家保留を考えると600頭強の販売と思われる。繁殖親牛に対して80%位の子牛販売が理想とされている。

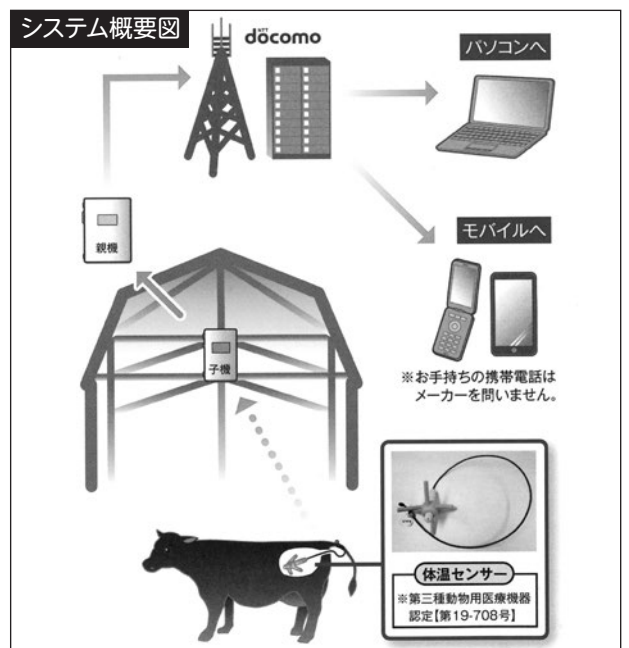
子牛の生産が低いのは発情の見落としや分娩時の事故のためと思われる

答弁(村長)

牛の繁殖率の向上及び分娩時の事故防止は畜産

経営上、最も重要な要素である。情報通信技術を用いた分娩監視システムや発情見装置が開発され、農家の作業負担の軽減と生産口の低減が期待されている。

現在は県やJAなども監視システムを検証しているようである。その効果が確認できれば夜間の見回りなどが軽減され、後継者対策の一翼を担うと期待される。それらの機械器具の確認をさせ村としての支援を行う。



畜産業の労働軽減が期待される情報管理システム



関根 政雄 議員

問

観光案内板と集落間案内板の設置をすべき

答

総合案内板は「手・まめ・館」に設置、来村者の目で案内板は検討する

質問

鹿角平観光牧場や手・まめ・館にも村内外より多くの観光客が訪れる季節となった。訪問者から「各施設や集落の位置が分からない」との声を聞く。特に「手・まめ・館」には全村の案内板が必要だ。また集落間を結ぶ分かれ道等への案内板を設置し「来村者に優しい村づくり」を確立すべきと考えるが。

答弁(村長)

「手・まめ・館」には以前からの要望があり、災害復興基金を活用して設置を計画する。また既存の案内標識の設置効果を検証し、必要なところがあれば設置する。

再質問

西山地区にある集落間の案内板は分かりやすい。村が設置しているがその経過を尋ねる。

答弁(村長)

20年以上前に担当職員が提案で設置したらしい。

再質問

集落間の案内板の予算措置が難しいのであれば、看板の原材料を集落に支給して文字を書いていただく「材料支給の道案内づくり」を提案するが。

答弁(村長)

暖かい道案内と併せて心がこもった案内板の設置を検討する。

問

総合的産業の担い手育成支援策を示せ

答

国県の有利な制度を活用し、担い手育成をする

質問

村の経済を支える産業は担い手が育成されない限り、継続的発展は望めない。商工業や農業の将来を担う担い手育成と新規就農者や若手起業家へ

村独自の支援を講ずるべきではないか。さらに施設園芸の導入を計画しているが運営と人材育成について尋ねる。

コンサルタントの指導ばかりでなく、近隣町村や村内にも優秀な園芸家が活躍している。鮫川村の立地条件や気候にあった講座やセミナーの勉強会を計画すべき。

再質問

近隣町村の意欲的な生産活動の研修をし、見習いながら起業家を育てていきたい。

再質問

村の子ども達にも「鮫川流総合的な産業教育」を計画し、生産から加工販売まで担う計画を立ててはどうか。

答弁(村長)

基幹産業を大事に思えるような教育を検討する。



来村者を優しく案内する集落間の案内板

農業の担い手対策は国の支援が厚いため、各経営体別に資金面や設備投資に対し個別の相談に乗ることとしている。 商工業者の若手起業家に対する支援は「村民ビジネスプラスコンテス」と操業支援制度を設立し、育成支援などの施策を検討中である。 施設園芸の導入計画は三菱総合研究所からの再生可能エネルギーを活用した地域活性化の提案を受けた。また産業興しプロジェクトを公募したところ6名の方が応募され、計画の方向性の議論や視察研修を重ねている。大型ハウスでの栽培作物は未定だが、運営者の研修期間は村で給料を

農業の総合的振興策になるか!!

村は有休農地の活用や交流人口の増加、さらに定住促進や総合的な地域集落の活性化を目的として「クラインガルテン」の整備計画を検討しています。

議会は農業振興策や定住人口策として「慎重に検討すべき施策」として9月上旬先進地視察を行いました。

◆ 四賀地区クラインガルテン(長野県松本市)



(長野県松本市) 松本市の北東部の旧四賀村に平成12年から3年間で国の補助金を活用し、総工事費8億円を投じた78区画。「滞在型クラインガルテン日本発祥の地」としている。

入居率は99%で運営は「四賀村づくり株式会社」に年間1千8百万円で指定管理で委託している。

◆ 梅の里クラインガルテン(山梨県甲斐市)



「梅の里クラインガルテン」は、周囲に棚田が見事な曲線を描き、甲斐の山々や富士山が一望できる丘陵地に設営されている。

国県の補助金と自主財源で8.5億円を投じた施設の応募率は1.3倍から8.8倍と高く、主に関東圏からの利用者が主である。

【クラインガルテン】

ドイツが発祥の地で「滞在型貸し農園」農地の賃貸制度。日本語に訳すと「小さな庭」「市民農園ともいわれ、有休農地の活用、市民の余暇の楽しみや子供の自然教育としても活用されています。また近年設営する自治体が増える傾向にあります。

村民の広場

村民の皆さんに信頼され、身近な議会づくりを目指すために、子ども達をはじめとする村民の皆様にご登場していただくページです。

私の夢シリーズ②

今がんばっていること

藤元 優雅くん (鮫川小6年生)



ぼくは鮫川スポーツ少年団の野球部に入っています。小さいころから、野球をしているお父さんのように野球ができるようになりたいと思い3年生の時に入部しました。現在、チームでは副キャプテンとキャッチャーを任かされています。最高学年としてチームを引っ張っていくことはもちろんですが、キャッチャーというポジションは、ピッチャーが投げやすいように、リードをしたり、相手チームのバッターをどうしたら打ち取れるかをかんがえるのがぼくの役目です。

指導してくれる方やサポートしてくれる両親、保護者の方、そして仲間と野球ができる環境に感謝の気持ちをもって一生けん命練習をがんばっていきたいと思います。来年は中学生になるので、勉強やスポーツなどにも今以上に充実させ、色々なことを体験したりチャレンジして心も体も成長していきたいと思っています。

ぼくはこれからも大好きな「野球」を続けていきたいと思うので、甲子園出場やプロ野球選手になれるように努力を続けていきたいと思っています。

議会モニター募集

鮫川村議会は、広く村民の皆様から、「村政や議会に関してのご意見」をお聴きし、「村政や村づくり」にご協力をいただける「議会モニター」を公募いたします。

- 対象者** 18歳以上の村民
- 募集数** 約7名程度
- 募集期間** 11月1日～11月30日まで
- モニターの期間** 平成28年1月1日から12月31日の1年間
- モニターの内容** 議会傍聴や議会懇談会の出席及びご意見・提言など

※詳細につきましては鮫川村議会事務局までお問い合わせ下さい。

お問合せ先 鮫川村議会事務局 0247-49-3198

ふるさと鮫川への想い シリーズ⑱

ふるさとを離れて27年が経ちますが、今の自分を育ててくれたのは両親であり豊かな鮫川の自然です。

私が通っていた頃の鮫川小学校は木造で、ちょうど6年生の時に今の校舎に建替えられました。バツタを探ろうとして学校の池に落ちたり、帰り道にへびを捕まえる、そんな川遊びが大好きな小学生でした。中学校で

◆プロフィール

【生年月日】昭和44年10月10日
 平成4年4月 郵政省入省
 平成12年7月 郵政省大臣官房人事部
 平成13年1月 総務省郵政企画管理局
 平成15年4月 日本郵政公社人事部
 厚生労働部
 平成19年10月 郵便局株式会社本社
 人事部
 平成22年4月 東京都小金井郵便局長
 平成27年4月 日本郵便株式会社本社
 人事部課長
 (現在に至る)

【家族】妻、長女、長男、次男
 【趣味】バレーボール



水野 哲夫 さん
 (赤坂東野字広畑出身)
 東京都在住

バレーボールに出会い、その後、学法石川高校、大阪の大学に進学しました。卒業して、平成4年4月に郵政省入省、同じ時期に大学時代に知り合った妻と入籍しました。翌5月には長女が誕生、社会人と父親1年生のスタートが同時でした。

翌年、1歳になった長女も一緒に石川町で結婚式を挙げましたが、当時、いわゆる子連れ結婚式というのは珍しく、式場の方にもいろいろとご苦労をかけたと思いますが、今となってはとても良い思い出となっています。その後、長男、次男にも恵まれました。

仕事の方は、郵政省、総務省、日本郵政公社を経験、その後、会社は民間会社になりましたが、現在も霞が関にある本社勤務で人事関係の仕事をしています。

週末は地元の小中学生を対象にしたバレーボールチームの活動をしています。長女が小学校の時に入部したチームの監督を引き継いだのがきっかけですが、これも中学の時のバレーボールが縁です。長男も次男も所属していました。チームは9年目で目標は日本一！これまで40名以上の卒業生がいますが、都内の強豪中学に進む子も多く、みんなバレーボールを続けてくれています。バレーボールで週末は家を空けることが多いのですが、妻や子供たちはいつも応援してくれます。そんな家族には感謝の気持ちでいっぱいです。

仕事の方は、郵政省、総務省、日本郵政公社を経験、その後、会社は民間会社になりましたが、現在も霞が関にある本社勤務で人事関係の仕事をしています。

週末は地元の小中学生を対象にしたバレーボールチームの活動をしています。長女が小学校の時に入部したチームの監督を引き継いだのがきっかけですが、これも中学の時のバレーボールが縁です。長男も次男も所属していました。チームは9年目で目標は日本一！これまで40名以上の卒業生がいますが、都内の強豪中学に進む子も多く、みんなバレーボールを続けてくれています。バレーボールで週末は家を空けることが多いのですが、妻や子供たちはいつも応援してくれます。そんな家族には感謝の気持ちでいっぱいです。



大槻杯で優勝した女子児童バレーボールチーム

昨今、故郷である福島のチームと交流を図りたいと思っています。

の思いから郡山の大槻スポーツ少年団さんと交流を始めました。今年の9月には郡山で開かれた「東日本大震災復興祈念大槻杯」という大会に参加しブロック優勝することができました。福島のたくさんのチームの皆様とも親睦を深めることができ大変有意義な大会でした。鮫川のチームとも機会があればぜひ交流したいと思っています。

いつの間にか吐く息が白くなる頃となり、我が家でもストーブが活躍し始めました。過日の鹿角平では来場者、関係者どちらの笑顔も印象的で「鮫川村のおもてなし」の素晴らしさを実感するイベントでした。今後も村民が少しでも多くの笑顔に包まれるよう、活発な議会運営に努めなくてはならないと、襟を正された第28回高原の鮫川うまいもの祭りでした。

編集後記

(編集委員)



全国議会広報研修会参加の編集委員

議会だよりの充実を目指して

村議会には村民の皆様により「分かりやすく読んでいただける議会だより」を目標として広報編集に取り組んでいます。村民の皆様からのご意見や提言、さらに議会や議会だよりへのご感想がありましたら議会事務局(49-3198)までお寄せください。